

ASLE-Japan Newsletter

December 1, 1993 No. 1

I. 報告

去る11月2日(火)、新宿の居酒屋「千草」で初めての会合を持ちました。ネイチャー・ライティングに関する会合を、こともあろうに東京は新宿のどまんなかで開くという愚挙ないし快挙を言祝ぎたいと、スコット・スロヴィック氏と語り合ったものでした。初回としては予想を超える12名の方の参加を得ました。次の方々です。(敬称略、アルファベット順)

後藤昭次 (立教大学)
石井倫代 (芝浦工業大学)
木下 卓 (愛媛大学)
中村邦生 (大東文化大学)
成田雅彦 (専修大学)
野田研一 (金沢大学)
太田雅孝 (大東文化大学)
岡島成行 (読売新聞)
スコット・スロヴィック
(サウスウエスト・テキサス州立大学)
高田賢一 (青山学院大学)
徳座晃子 (東京経済大学)
外岡尚美 (青山学院大学)

会合はまず、現在、ASLE-U.S.A.*の会長でありフルブライト招聘客員講師として滞日中のスコット・スロヴィック(Scott Slovic)氏より、ASLE-U.S.A.の活動内容について詳細かつ多岐にわたる報告がおこなわれました。昨年、発足したこの研究組織は、現在メンバー400名前後。文学と環境の問題を対象とするきわめて学際的な志向性を持った研究グループであり、Leo Marx, Lawrence Buell, Barton L. St.Armand, Annette Kolodny といった著名なアメリカ文学研究者も多数参加しています。毎週会員が増える勢いとのこと。MLA など大きな学会でのセッション開催など学会活動のほか、The American Nature Writing Newsletter、ISLE: Interdisciplinary Studies in Literature and Environment など出版活動もおこなっています。また、大学院生の研究活動を促進する方法も講じられ、きわめて開かれた組織だとのことでした。

*ASLEとはAssociation for the Study of Literature and Environmentの略です。

次いで、ネイチャー・ライティングという文学ジャンルをめぐる最近の出版および研究状況に関する報告がありました。この5年間に出版されたネイチャー・ライティングのアンソロジーは10点以上に達し、これに即応して、研究活動もきわめて活発であり、現在スロヴィック氏らを中心として、ネイチャー・ライティングに関する複数巻の事典の編纂も進行中とのことでした。こうした一連の動向に関しては、雑誌『フォリオa』(第2号、ふみくら書房)所収のスロヴィック氏の論文「アメリカン・ネイチャー・ライティングの現在」をご参照いただければ、より詳細な情報が入手可能と思われます。

その後、討議に入りました。話題としては概ね次のような事柄です。

1) 現在、ASLE-U.S.A. はネイチャー・ライティングを国際的な視野で捉えようとする課題を提起しており、その最初の手がかりが日本におけるASLEの設立と交流であること。

——今後、ASLEのような組織が私たちの間から生まれる可能性があるかどうか、初回からいきなり結論が出せるものではありません。ただ、今回参加して下さった方々が、それぞれの関心分野から「文学と自然」、「文学と環境」という問題への接近を模索していただく機会となれば、初回の議論としては成功であったと思います。事実、個別のあるいは全体的な議論のなかで、さまざまなアイデアが提起され、この問題をめぐっては大きな可能性と研究の余地があることを実感しましたし、多くの研究者が関心を抱いておられることも判りました。その意味では、こうした議論を積み重ねることから出発するのがもっとも良い方法だと考えます。

2) 日本でこの分野の研究の促進を図るには、文部省科研費を初めとするさまざまな共同研究プロジェクトを企画する必要があること。

——共同研究的な性格を持つことは、このような分野ではもっとも望ましいことと思います。各種研究基金について情報をお持ちの方はお知らせください。環境問題ジャーナリスト、岡島成行さん(読売新聞)によれば、このようなテーマによる研究費獲得はけっして難しくないそうです。また、将来的にASLE-U.S.A.との連携を前提とする限り、会議費用などの分担なども考慮に入れておく必要があるでしょう。

3) 日本におけるネイチャー・ライティングについて研究する必要があること。

—ASLE-U.S.A.がいわば「国文学」としてネイチャー・ライティング研究を行っているように、私たちが日本文学に目を向けないわけにはいきません。たとえこの新しいフレーム・ワークが輸入品であっても、これを適用することによって、日本文学の新しい側面が見えてくるのではないかという期待があります。じっさい、スロヴィック氏のもとへ、日本のネイチャー・ライティングを紹介して欲しいという依頼がアメリカの雑誌から来ています。今後、こうした要望にも答えてゆく必要があると思います。そこで、提案です。日本のネイチャー・ライティングに関する書誌を2種類、早急に作成したいと思います。一つは、作品に関する書誌。ネイチャー・ライティングというジャンルに該当すると思われる作家・作品に関する提案ないし情報をお寄せください。もう一つは、研究論文書誌。柄谷行人『日本近代文学の起源』などのように、日本文学と自然の問題を探る手がかりとなるような研究書を蒐集してゆきたいと思います。いずれ、これらを対象とした読書会・研究会を開き、ジャパニーズ・ネイチャー・ライティングへの私たちの入射角を見定めてゆきたいと思います。

以上が11月2日の会議の報告です。

II. その他

1) 初回の会議では、とくに組織を発足させる決定をおこなったわけではありません。むしろ意見交換、情報交換の場でしたので、何も決定しませんでした。ただ今後の展開の足場を築くため、有志として「ASLE-Japan/設立準備会」なる名称でとりあえずニューズレターを作成し、今後の活動に繋げてゆきたいと考えております。世話人として大神田丈二（山梨学院大学）と野田研一（金沢大学）が勝手に名乗り出しましたが、今後のこともありますので、一緒に活動していただける方、早急にご連絡下さい。お待ちしております。また可能なかぎり、討議の場を持ち続けたいと考えます。

2) 前述の「書誌作成」の件、随時受け付けます。電話なり手紙なりで下記までお知らせください。

野田研一

または

〒920-11 金沢市角間町
金沢大学教育学部英語研究室
Tel. 0762-64-5524

3) スロヴィック氏は目下、ネイチャー・ライティングに関する読書会を企画しています。東京周辺の方に限定されますが、積極的にご参加下さい。また、同氏の講義をのぞいてみようとお考えの方、直接ご連絡下さい。いつでも歓迎だそうです。スロヴィック氏の連絡先は次のとおりです。
(上記野田にご連絡いただいても結構です。)

4) 近く名簿を作成いたします。あくまで準備会としての名簿ですが、ニューズレターや会合などのご案内をお送りするためのものです。名簿への記載の可否を含め、野田までご連絡下さい。ネイチャー・ライティングを一定のジャンルとして考えてゆくには、多方面からのアプローチが必要です。その意味では関心領域は問いません。さまざまな分野の方を糾合する必要がありますので、このような動きがあることをいろんな方にお知らせ下さい。日本文学、東南アジア文学の研究者、ジャーナリスト、作家などで関心を寄せて下さっている方々がおられます。5) 現在、日本ソロー協会のご協力をえて、来年5月の日本英文学会全国大会（熊本大学）の前日、ソロー協会と合同でシンポジウム、『Nature and American Literature』を開催する計画を進めております。同時に、この日を何らかの組織発足の日とすることも可能ではないかと考えております。ご意見等ありましたらお寄せください。

編集・発行

ASLE-Japan/設立準備会

代表世話人

大神田丈二、野田研一